

SSH生徒研究発表会 in神戸国際展示場

8月6日(火)～8月8日(木)にかけて、学校の代表としてSSH生徒研究発表会(神戸国際展示場)に参加してきました。SSH生徒研究発表会は、全国のSSH校がそれぞれの学校の中で一番優れている研究(部活動でも課題研究でも構いません)を発表する場です。今回は経験校を含め231校が参加しました。今年度、本校から代表として参加したのは、理数探究(課題研究)の中で学校代表となり、3月に行われた宮崎県生徒課題研究発表大会で最優秀賞に選出された「リーゼガング現象における反応機構の究明」班(満永夏深、丸本晃司、野元利矩、松葉幸信、北村優羽、橋詰和佳)です。

前日、準備の為に会場に向かいました。入口に見えた看板に気持ちが入りつつも、会場に入ると、ポスターブースの数に圧倒されてしまいました。まだ1枚もポスターが貼られていない状態でしたが、全てポスターが入ることを想像するだけでワクワクしました。



本校のポスター発表見学者第1号は「東京都立川高校」の生徒さんでした。(この後、お互い発表を見学しあい、交流を深めました。)1回の発表時間に区切りがないので、発表後の質問が白熱すると1ターンの終わるまでかなり時間がかかります。本校の研究に興味を持ってくださった他校の先生や生徒から、今まで受けたことのない数の質問を受け、審査では3名の先生から、学会さながらの質問を10分ほど受け、生徒はかなり苦戦していました。



発表では、暗記した内容の流れのように発表している学校もあれば、見学者の反応に応じて説明を臨機応変に変更している学校もありました。テーマや研究内容ももちろん重要ですが、発表力(プレゼンテーション力)の違いで見学者数にも大きな違いがありました。また、ポスターセッションにおいては、説明を受けながら疑問に思ったことを端的にまとめて相手に伝える質問力も重要だと感じました。

ポスター発表の審査で選出された代表6校のプレゼンテーションが全体会で行われました。どの研究も先行研究(文献調査)がしっかりされていることに感心しました。また、自らの仮説に基づき、あらゆる視点から何度も何度も調査・実験を行っており、その多角的な視点に研究への興味や熱意を感じました。さらに、発表後の質問に嬉しそうに答えている姿がとても印象的でした。

それぞれの地域性や研究内容は違いますが、全国の高校生が本気で取り組んだ研究にとても魅力を感じました。講評等で多くの先生が話されたのは「テーマの独自性と発展性」「地域や日常生活の課題解決」「社会への有用性」でした。「高校生が自分で見つけた面白く夢のあるテーマに大きく挑戦してほしい。そして、その研究が発展することで、日常の課題解決につながり、社会へ還元できるような有用性を見出してほしい」と言われていました。

課題研究するうえで一番難しいのはテーマ設定だと思います。今後も日常生活や通常の授業、体験活動、地域・地元企業との関わりの中で、探究心をフル稼働させて研究の種をたくさん見つけてくれることに期待したいところです。

授業改革 職員研修会 実施

SSH事業の3つの研究開発目標のひとつが、「科学技術人材育成に繋がる授業改革」です。これは探究活動充実の裏で、単位数が縮小された普通教科の授業の質をいかに充実させるのか、全教科科目による私たち教職員の探究的な取り組みになります。2学期始業式直前の令和6年8月19日(月)に、授業改革に関する職員研修会を実施しました。



1学期に実施された第1回研究授業期間では、各教科の代表の先生方に「探究型授業」に挑戦していただきました。この期間は「いずみ式探究型授業」を確立していくための第一歩となる期間であり、これまでの授業と今回の研究授業を比較することで、それぞれ先生方が授業実践を振り返り、今後の授業改善に活かすヒントを得る機会として設定されました。



研究授業後には各教科毎に事後研修会が実施されましたが、教科の枠を超えて情報共有するために、授業者や各教科会の振り返りや職員アンケートのデータをもとに「授業研究レポート」を作成して配付しました。しかし、文字情報だけでは伝わりきらない、体験から得られた情報を対話によって共有する機会として大変意味のある研修会になりました。



さて、今回の研修会ですが、「生徒が主体的に学ぶ探究型授業とは？」をテーマにワールドカフェ形式で実施しました。まずは教科毎に4～5人で1班になり、先のテーマについて探究しました。その後、各々が「ぜひ話しを聞いてみたい!」という他教科のテーブルに移動して、教科の枠を超えて探究しました。これを3ターム繰り返すことで、ひとりでは気づけなかったヒントや広い視野を得ることが出来ました。最後は最初の班に戻って、他教科から得られた情報や視点を共有、ワークシートに記録して各班で話し合われた内容を全職員がアクセスできるデータとして保存しました。

この研修会を通して、今後の授業改革に活用できるヒントや2学期に実施予定の第2回研究授業期間に繋がる材料を得ることが出来ました。現在職員アンケートを実施中です。本校の「探究型授業」の定義とは何か?知識の重要性や受験との兼ね合いなど、まだまだ悩みも多いですが、研究開発目標を達成できるように、私たちも全校体制で探究し、挑戦を続けていきます!よりよい授業を確立していくために。

